

# 灯火のつどい

灯火のつどいは、参加者一人一人がろうソクを持って燭台（しょくだい）を囲み、厳粛な雰囲気の中で行われる儀式的な行事です。キャンプファイヤー同様、参加者にとって忘れられない思い出となる活動のひとつです。事前にねらいを明確にするとともに、より効果的に実施するために、役割分担やレクリエーションの内容、音響機器の操作、会場設営等リハーサルを含めた準備をしっかりとしておくことが重要です。



## 活動のねらい

- (1) 灯火のつどいを通して家族や仲間の大切さに気づき、感謝の心をもつことができる。
- (2) これまでの自分の生活を見つめ直し、より充実した生活にしようとする態度を養う。
- (3) スタンツ等の交歓を通して交流を図り、仲間とのよりよい関わり方を考え、互いの連帯感を深める。
- (4) 暗い中で移動や火の管理について十分注意し、安全に行動できる。

活動可能人数	無制限	活動・季節条件	通年
所要時間	1～2時間（準備を含む）	主な対象	幼児～
実施場所	プレイホール・コミュニティールーム他	グループの人数	—
導入指導	間接・講師	自然の家職員が各団体代表者に説明後、代表者から利用者に説明	

## 指導上の留意点

- (1) 灯火のつどいのねらいを明確にし、引率者全員で共通理解を図ってください。
- (2) 参加者主体のプログラムになるよう役割分担や演出の工夫を行い、事前に打合せや練習をして本番に臨んでください。
- (3) 燭台（しょくだい）やろうソクなど火の管理を十分に行い、火災ややけどに注意してください。
- (4) 講師を依頼した場合は、事前に講師と入念な打合せを行ってください。※ 別途、講師料が必要

## 準備物

### 自然の家が貸し出しできるもの

ろうソク（燭台用） 手燭（参加者用） トーチ6本（係用） CD ラジカセ ポータブルアンプ  
マイク BGM用CD ブルーシート等

### 利用者または団体で準備するもの

ろうソク（参加者用） ライター 衣装 BGM用CD等

### 購入するもの・できるもの

ろうソク（参加者用）

## 活動内容

- (1) 準備をする。※ろうソク（大）は自然の家で準備する。
  - ① ブルーシートを中央に置き、その上に燭台を移動する。
  - ② ろうソク（大）の先を削り、燭台に固定する。
  - ③ トーチ（6本）にろうソク（大）を固定する。
  - ④ 各係によるリハーサルを行う。（役割分担：親火1 営火長1 火の守4 司会者1 音響係1）
- (2) プログラムを行う。
  - ① 第1部 迎え火の式
    - ア 全員で歌（遠き山に日は落ちて）を歌っている中に、灯火を迎える。（歌省略 BGMのみ可）
    - イ 親火が誓いの言葉を述べる。
    - ウ 親火が火の守に呼びかけながら灯火を分ける。

- エ 営火長が迎え火の言葉を述べる。
- オ 営火長が点火の宣言をする。
- カ 親火・営火長・火の守が参加者全員に灯火を分ける。
- キ 司会の言葉を静かに聞く。(BGM：燃えろよ燃えろ)
- ク ロウソクの火を吹き消す。(燭台の火は残す)
- ケ 親火を先頭に営火長・火の守が退場する。

② 第2部 交歓のつどい

- ア はじめは気持ちや身体をほぐすような動きの入ったものや、スキンシップのあるゲームなどがよい。
- イ 中程では参加者によるスタンツを中心に、歌やゲームなどを入れながら雰囲気盛り上げる。
- ウ 全体の3分の2ほど進んだところで、最も盛り上がるようなダンスやゲームをする。
- エ 終盤は気持ちを静めていく活動を行う。(引率者による語りかけ、手紙の朗読等)

③ 第3部 送り火の式

- ア 親火・営火長・火の守は迎え火と同じ位置につく。
- イ 営火長が送り火の言葉を述べる。(BGM：今日の日はさようなら)
- ウ 参加者全員で歌を歌う。(省略可)
- エ 親火・営火長・火の守は燭台の火を消す。
- オ 親火を先頭に営火長・火の守が退場する。

(3) 後始末をする。

- ① 消火の確認をする。
- ② 燭台とブルーシートを片付ける。
- ③ 参加者のロウソクと手燭を片付ける。
- ④ 周辺の清掃をする。

※ 灯火のつどいマニュアル(シナリオ例)がありますので、自然の家職員にお尋ねください。